



12年前日記

2000年1月15日
(土)

山田夫妻

【2000年1月15日(土)】*2012年1月15日(日)記

朝11時、起床。今日も今日とて不良ぶって遅起きしてみたが、「今日の不良ぶり」も五日目になるとそろそろ飽きてくるもんだ。目新しい不良ネタ、なんて言い草はあくまで言葉の綾で、別にネタではないけど、ニホンゴムツカシイネ、特になし。

というか、いつまでも現実逃避ばかりしてられない。もう一度ミスタータンドラーに会いに行くか、それとももう一度たらい回しの原点まで戻るか、もしくは取材パスを諦めて、メソトに向かい、難民キャンプに不法潜入するか。と嫌が応にも気分が盛り上がるように盛り立てたはいいが、いつもの例のアレですよ、アレ。

土曜日でした、今日ったら。内務省休みだし、たぶん。もう、せっかくヤル気になったのに、俺のヤル気はナマモノだ！ 取替えしは効かない。そんな殊勝な心配はご無用でした、ことごとく俺のヤル気をそぎやがる。

それともまさか俺ってば、土日にヤル気になるタイプさんなのかしら。とりあえず振り上げたこぶしのやり場は、衝動的なホテル替えで発散。

12時、ちょうど安宿にも飽きてきたので、荷物をまとめて、チェックアウト。別に野良犬風情が怖くて逃げ出すんじゃないぜ。あのクソ犬には近いうちにリベンジを果たす。貧乏人の乗るスカイトレインには乗らず、メータータクシー(60B)でこの安宿街から離れた、ガイドブックで適当に選んだのになぜかたまたま歓楽街、バツポンの中にある高級ホテル『Nana Inn Hotel』にバ〜ンと乗りつける。おい、お釣りお釣りだよ、運ちゃん。なんでちゃんと運賃の60Bを払ったのに、その上チップで40Bもやるかよ、まったく油断も隙もない、100B札なんて出すもんじゃないな、小銭万歳。

ココは高級ホテルだから、親名義のクレジットカードが使える。違ったかも、現金だったかも。どっちにしろ、一泊963B。しかもいまいち不良になりきれない金欠ドケチエピソード。さすが高級ホテル、部屋に荷物を運んできたボーイが女はどうだとしつこい。値段を聞くがアレなので、やめておく。

やにさがった顔でホイホイ買うときっと女スパイで、寝物語に俺が取材で得た機密事項を聞き出すつもりなんだろう。そんなピロートーク大作戦にまんまと騙されるかっ！

俺もバンコク暮らしが長い(ちょっとチェンマイ暮らしもあり)。バンコクじゃ、つと名の知れた顔の知れた戦場特派員、あ、自称プロ自称プロ、頭に自称プロ戦場特派員ってつけるのうっかりすっかりさっぱり忘れてたや、危ない危ない。

エロボーイに、口止め代わりにチップで10B渡すと、えっ、こんなという顔で何か言いたげだったが、いいんだ、察しておくれと扉をバンと閉めてさよならのサイン。そんな太っ腹なところをもっと垣間見せてやろう、もうスパイがうんぬんは言いません。

本を読んでもだけの国際派の自称プロ戦場特派員につくスパイなんてロクもんじゃないねえ。しかし、ホテルを出るときなどに悲しい習性でつい後ろを振り返ってしまう。傍目には落ちていた小銭をハッと振り返ってみてみたいでも。どうしよう、そんな風に思われてたら、日本の恥

だわ。とホテルで堂々巡り。こういうときは中途半端にウジウジ考えても仕方ない、徹底的に仕事のことは忘れて遊んじゃえ。そのうち、このままじゃいけないと心底から思うはず。未来への宿題。はあ〜、正直仕事も遊びももうどうでも。しょせん何もする気が起らない。ま、これは今に始まったわけじゃない。カレン行きが決まったときからずっと乗り気じゃない、モチベーションもテンションもずっとゼロのまま、継続は力なり。

14時、そんなとき、男は旅に出るもんだ。行き先も決めず、片道切符を握り締めて、電車に乗り込む。すぐに20B分の小旅行終了。

日本食の昼飯を食べる231B。食後にもまた20Bの小旅行。

16時、この面ひっさげて、ホテルにノコノコ出戻り。夕飯も食べずに、読書三昧。

3時、明日は日曜だからゆっくり寝られるので、遅めに就寝。腹減った。

○本日の出費、「計算するのが面倒臭いから、各々で適当にしといてよ」B。ついでに一日の流れも「いちいちうっとうしいから誰か簡単にまとめといて」ジャ〜。

『12年前日記 2000年1月15日(土)』

<http://p.booklog.jp/book/42434>

著者：山田夫妻

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/42434>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/42434>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.